

小坂収容所（仙台第8分所）メモ （フィリップ・クーンさんが収容）

1944.12.1 東京俘虜収容所第10分所として、秋田県鹿角郡小坂町の小坂鉱山内に開設

1945.1.30 最初のグループ150人が到着(米軍のThomas Walker DAVIS 大尉指揮) (Coon氏も同グループ)

1945.3.31 2番目のグループ100人が到着(蘭軍?のBOMBASHA 大尉指揮)

1945.4.14 仙台第8分所と改称

1945.5.13 3番目のグループ100人到着(蘭軍将校指揮)

1945.8.15 終戦

1945.9.12 帰国

●終戦時収容人員は343人(米236、蘭99、英8)。

●収容中の死者8人。全員アメリカ人で、死因は肺炎、脚気、リンパ性肉腫、食中毒など。

●収容所は小坂鉱山の元山・大谷地住宅地付近にあった。戦後、この場所は元山小学校のグラウンドとして使用されたが、同小の閉鎖に伴い、現在は原野と化している。

●小坂鉱山は、かつて日本四大銅山の1つとして繁栄を極めていた。捕虜たちの一部は機械工場や電気工場で働き、残りは収容所の北西にある山腹で原鉱を貨車に積んだり押し下りする作業に従事した。

●現在、鉱山は閉鎖され、後続企業の同和鉱業が精錬施設の一部をリサイクル工場として稼働させているだけだが、当時の栄華を偲ばせる鉱山事務所や芝居小屋「康楽館」が国の重要文化財に指定され、多くの観光客を集めている。

●死亡捕虜が火葬、埋葬されたと思われる場所は、寺の沢地区の曹源院という寺の奥にあり、現在は樹木や笹に覆われ、何の痕跡もなくなっている。
(文責：笹本妙子)



最盛期の小坂鉱山



2010年6月時点の旧小坂鉱山